

## 「大塚勲文庫」と虫の本：2008年寄贈図書基本登録 完了と概要紹介

福原，美恵子  
九州大学総合研究博物館

<https://doi.org/10.15017/4774259>

---

出版情報：九州大学総合研究博物館研究報告．19，pp.27-31，2022-03-31．The Kyushu University Museum

バージョン：

権利関係：

# 「大塚勲文庫」と虫の本 —— 2008年寄贈図書基本登録完了と概要紹介 ——

福原 美恵子

九州大学総合研究博物館：〒812-8581 福岡県福岡市東区箱崎6-10-1

**要旨：**2008年に、九州大学総合研究博物館は、大塚勲氏（1923-2007）が収集した図書約4500点の寄贈を受けた。2021年に「大塚勲文庫」として基本登録が終了したので本文庫の概要と主要な資料を報告する。「大塚勲文庫」の内容は、1901年から2007年に発行された昆虫学を中心とした専門書と定期刊行物、図鑑、昆虫学研究者の著作、論文集、自然科学の一般書、児童書、九州各地の文化、地誌分野の書籍である。

**キーワード：**博物館、標本資料、書誌情報、メタデータ、データベース、自然史、昆虫学

## はじめに

熊本県において長年にわたり昆虫相の研究を続けられたアマチュア研究者大塚勲氏（1923 [大正12] – 2007 [平成19年]）が収集した昆虫標本約21万点と図書約4500点、2008年、ご遺族により九州大学総合研究博物館に寄贈された。標本については、丸山（2021a）で短く紹介されている。図書については、2021年12月に「大塚勲文庫」として基本登録が終了したので、概要を報告する。基本登録終了時点では、「日本十進分類法（NDC：Nippon Decimal Classification）」に準じた整理はおこなっていない。当館に運び込まれた際の順序に従って配架している。これは、大塚氏が収蔵されていた時の配列順序をある程度保っていると思われる。

## 「大塚勲文庫」の内容

大塚勲氏は熊本昆虫同好会を主宰しアマチュア研究者として熊本県の昆虫相の解明と生態研究に生涯を通じて取り組まれた。「大塚勲文庫」の書籍、雑誌類の発行年代は1901年から2007年までであり大塚勲氏の生涯とほぼ重なるが、少年時代から青年時代に愛読した書籍は終戦時

台湾からの引き揚げの際に失われ、また、1953年6月の昭和28年西日本水害によっても蔵書は大きな損傷を受けた（大塚，1982a）。したがって、昭和20年代以前発行のものは後に古書店等で求めたものも多いと推測される。

4421点の内容区分を表1に示した。大塚勲氏自身の1984年の著書『ヒメウラナミジャノメが花に来ること 熊本の虫たちとの40年』（私家版）と別刷り111報が含まれる。昆虫学分野の専門書、図鑑、交流のあった研究者たちの記念論文集、著作から一般向けの書籍まで1238冊が含まれる（図1）。定期刊行物2311点と合わせ、昆虫に関わるものが8割を占める。江崎悌三（1899–1957）、安松京三（1908–1983）、白水隆（1917–2004）、土生昶申（1920–2008）、佐々治寛之（1935–2006）ら九州大学に関わりのある研究者の著作も多く（図2）、当館に寄贈された大塚昆虫標本の大部分が専門家の同定を経ている（丸山，2021a）ことと合わせ、大塚氏の「同定を誤ったり、虚偽のものは許されない」（大塚，1982b）という姿勢を偲ばせる内容ともなっている。

定期刊行物は2311点（製本されているものは一点と数えた）145タイトルあり、一定期間継続して収集されたものも約90タイトルを数える。昆虫学関連の代表的な学会誌、ニューズレターを始め、『寶塚昆蟲館報』（宝塚昆虫館，1941年創刊）、『昆虫学評論』（近畿甲虫同好会、

表1 「大塚勲文庫」の内容区分

分野	数	単位	備考
昆虫学分野の書籍	1,238	冊	
魚類、動物、植物分野の書籍	350	冊	1901~2007年発行
自然史分野の一般書	390	冊	
九州県内の文化、山岳、地誌分野書籍	130	冊	
昆虫学分野を中心とした定期刊行物類	2,311	点	145タイトル
大塚勲別刷り	1	式	111報 (目録作成済み) *
佐々治寛之別刷り	1	式	35報 (目録作成済み)
合計	4,421	点	

\*大塚 (1982b) によると1982までに発表された報文は約200報である。



図1 大塚勲氏随想「虫の本と私」(「昆虫と自然」17(3) : 44, ニュー・サイエンス社)で紹介された書籍 (寄贈書籍中に存在したもの)

上段左から、白水隆『日本産蝶類分布表』(北隆館, 1958), 北杜夫『どくとるマンボウ昆虫記』(中央公論社, 1961), 白水隆・原章『原色日本蝶類幼虫大図鑑 VOL. I』(保育社, 1960), 白水隆・原章『原色日本蝶類幼虫大図鑑 VOL. II』(保育社, 1962), 白水隆『原色図鑑 日本の蝶』(北隆館, 1965), 西口紫『五月廿五日の紋白蝶』(博多余情社, 1967)。

下段, 平山修次郎『蝶類図譜』(三省堂, 1942)。



図2 九州大学に関わりのある研究者の著作

左端から、江崎悌三『江崎悌三著作集 第一巻』(思索社, 1984), 安松京三『天敵生物制御へのアプローチ』(日本放送出版協会, 1970), 白水隆『昆虫百科図鑑 I チョウ・ガ』(講談社, 1973), 土生昶申『FAUNA JAPONICA (日本動物誌) 昆虫綱・オサムシ科 ヒラタゴミムシ族』(Keigaku Publishing, 1978), 佐々治寛之『FAUNA JAPONICA (日本動物誌) 昆虫綱・テントウムシ科』(Keigaku Publishing, 1971)。

1946年創刊、『新昆虫』（北隆社、1946年創刊）のように、各地の昆虫館、博物館や昆虫同好会の会報・館報、商業誌などが含まれる。また、『昆虫分類学若手懇談会ニュース』（昆虫分類学若手懇談会事務局）といったインフォーマルな団体の定期刊行物も含まれる。なお、『熊本昆虫同好会報』を含む各地の昆虫同好会誌は、主に熊本県立博物館準備室（熊本県博物館ネットワークセンター）に収蔵された（丸山宗利、私信）。同センターでは収蔵資料データベースが構築されている（<http://jmapps.ne.jp/kmnc/>）。

その他、動物、植物、農学分野の書籍が350冊、児童書を含む自然史分野の一般書が390冊。また九州各地の文化、山岳、地誌分野の書籍も130冊含まれる。複本（重複本）が含まれるのも特徴で初版と改定版、単行本と文庫版の双方が揃っているものもある（図3）。

「大塚勲文庫」は地域の昆虫相の解明に取り組みつづけた年月の積み重ねを包括的に辿れる内容であるといえよう。

### 「大塚勲文庫」の付加価値と問題点

当館の他のコレクションのうち、「大塚勲文庫」と大きな関わりを持つものとして、中條道夫博士の著作、論文



図3 複本（重複本）

左端から上下に、吉良竜夫『生態学からみた自然』（河出書房新社、1971）、吉良竜夫『生態学からみた自然』河出文庫（河出書房新社、1983）、大町文衛『日本昆虫記』（朝日新聞社、1948）、大町文衛『日本昆虫記』講談社学術文庫（講談社、1982）、今村猛雄『実験 小鳥の飼方』（東文堂書店、1917（初版））、今村猛雄『実験 小鳥の飼方』（東文堂書店、1921（6版））。

掲載誌、発行雑誌が挙げられる。当館が2020年に寄贈を受けた中條道夫コレクションには中條道夫博士が描いた原図が多数含まれる（丸山、2021b）。今後の調査が必要であるが、「大塚勲文庫」にはこれらの原図を用いて印刷された雑誌、書籍が含まれる（図4）。また、中條道夫博士が個人で発行された『NIPONIUS』とご子息の中條道崇助氏との共編である『MIKADO』（吉富、2015）は全号揃っている。さらに当館は、安松京三、村上陽三、三枝豊平といった九州大学に在職した昆虫学研究者の原図も所蔵しており（高山、2016）、それらの付加情報の補充源として重要である。また、書籍には大塚氏宛て私信や学会事務局、古書店からの伝票が挟まれたものも多く、調査が進めば昆虫研究史資料としての価値も併せ持つと思われる。一方、昭和20年代以前の書籍には経年劣化および1953年6月の昭和28年西日本水害による損傷のため劣化が激しいものもあり（図5）、今後の保存に懸念が生じている。

「大塚勲文庫」の登録情報は、九州大学総合研究博物館データベース（<http://db.museum.kyushu-u.ac.jp/>）の「図書」にて公開している。

### 謝辞

2008年の受け入れ時および受け入れ後の運搬、配架には、多数の学生、ボランティア、技術補佐員に助力いただいた。また、



図4 中條道夫博士が描いた原図と掲載誌

Chujo, M., 1955. Erotylid-Beetles of Aomori-Prefecture (the Northern-End of Honshu, Japan) Collected by Mr. K. SHIMOYAMA (III), The Entomological Review of Japan. The Kinki Coleopterological Society, 6(6):43-44.

学名（種小名）は昆虫研究者下山健作に献名されている。「大塚勲文庫」には下山健作『つがるの蝶』（下山健作先生青森県文化賞受賞記念刊行会、1982）が含まれる。



図5 経年劣化および水害による被害

印刷面の著しい汚れや変色，用紙の劣化，ページの脱落などが見られる。上から，江崎梯三・白水隆『日本の蝶』（『新昆虫』4北隆館，1951），安松京三『蚤の話 自由文化叢書』（惇信堂，1946），平山修次郎『蝶類図譜』（三省堂，1942）。

「大塚勲文庫」の登録作業は九州大学総合研究博物館の今村裕美技術補佐員と上杉まどか技術補佐員が行なった。作業に関わったすべての方に感謝申し上げる。同博物館協力研究員の城戸克弥氏には、昆虫関連の資料について多くのご教示をいただいた。厚く御礼申し上げます。

## 参考文献

- 丸山宗利，2021a，甲虫コレクションガイド24 九州大学総合研究博物館の甲虫コレクション。さやばねニューシリーズ 43: 32-35.
- 丸山宗利，2021b，中條道崇収集甲虫標本の寄贈受け入れ。九州大学総合研究博物館ニュース 36: 7.
- 吉富博之，2015。NIPONIUS と MIKADO。さやばねニューシリーズ 19: 57, 58.
- 大塚勲，1982a。虫の本と私。昆虫と自然 17 (3): 44.
- 大塚勲，1982b。短報を書いて40年。昆虫と自然 17 (14): 3.
- 高山百合（編），2016。九大百年『美術をめぐる物語，平成28年度福岡県立美術館企画展・平成28年度九州大学総合研究博物館公開展示図録』福岡県立美術館・九州大学総合研究博物館，福岡。

Received Nov. 30, 2021; accepted Dec. 21, 2021

## Entomological books and periodicals collected by Isao Otsuka

Mieko FUKUHARA

The Kyushu University Museum, Hakozaki 6-10-1, Higashi-ku, Fukuoka, 812-8581, Japan

In 2008, the Kyushu University Museum received about 4,500 books and periodicals collected by Isao Otsuka (1923-2007), who have largely contributed to the elucidation of entomological fauna of Kumamoto prefecture. Since the registration of this collection as “Otsuka Isao Bunko” was completed in 2021, the outline is reported here. It contains more than 3500 books and periodicals on entomology published from 1901 to 2007.

**Key words:** museum, specimens and materials, bibliographic information, metadata, database, natural history, entomology